

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490800238		
法人名	(株)明日葉		
事業所名	グループホームあした葉 結の家みやがわ		
所在地	三重県伊勢市佐八町字前田712番地1		
自己評価作成日	平成26年10月17日	評価結果市町提出日	平成27年1月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JivogyoCd=2490800238-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JivogyoCd=2490800238-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 26 年 11 月 5 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は平成26年4月1日にオープンした。理念は事業所の名前にもあるように利用者、家族、地域を『結の心』で結び、利用者にとって心安らぐ『第2の家』になることを目指している。当施設は山々に囲まれ自然豊かな環境の中、隣には保育園もあり、園児達の散歩コースにもなっている。特に楽しい食事は、自分たちで献立を立て、買い物をし、調理を行うということを大切にしている。利用者の誕生会には手作りのケーキと本人の一番食べたいもので祝うようにしている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな神宮林に守られているような伊勢市の郊外に位置しており、可愛い園児の声が聞こえる保育園に隣接した懐かしい雰囲気有する地域に立地している。敷地はとても広く、ゆったりとしており、建物も落ち着いた佇まいになっている。利用者・職員から全幅の信頼を得ている理学療法士でもある代表者のもと、運営理念『第二の我が家』結の心で利用者と家族、地域社会を結ぶ。』を高年齢介護の深い知識と豊富な経験をもつ管理者と全職員が共有し、日々の介護にあたっている。昼食時、『此処の御飯は楽しみ！』と話された利用者を見守る職員の眼差しも優しく、家族からも『此処にいたら安心』と感謝の声が多く届いている。美味しい食事を通し質の高い健康的な生活を家族・利用者の希望に添えるように、臨機応変に対応している。近隣から新鮮な野菜や果物が届いたり、地域住民や家族の訪問が日常的に行われている。保育園の運動会や佐八の朝市に出かけるなどの楽しみ事も多く、地域から大切にされている事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「第2の我が家」結いの心で利用者と家族、地域社会を結ぶ。この理念と共に「目配り」「気配り」「心配り」を忘れないように、会議毎に確認しあっている。	事業所名をグループホームあした葉結の家みやがわと命名され、理念『「第二の我が家」結の心で利用者と家族、地域社会を結ぶ』を全職員が参加できるスタッフ会議時に確認・共有し、ふり返りを行いながら実践に繋げるように努めている。	理念を開設時より創りあげ、代表者・管理者・職員は会議時に確認しあっているが、事業所内に掲示されていない。利用者や地域の方々、家族にも分かり易いように、工夫して掲示されることが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りに利用者と参加したり、隣の保育園の運動会に招かれ参加する等、少しずつ地域とのつながりができてきている。	隣接の保育園の園児や佐八の朝市等で地元の方々との交流が日常的に行われている。また、地域の新鮮な野菜や果物が届くなど、地域住民が事業所の応援団になってきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所を開設して半年ほどなので、運営推進会議では、認知症の方達の生活について理解していただくよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で隣の保育園との境のフェンスを扉にして災害時に、また普段でもお互いに行き来できるようにしようと話し合い、保育園の運動会前に完成した。	伊勢市地域包括支援センター・佐八区長・民生委員・保育園園長・家族が参加され、2ヶ月に1回(19時～)に開催している。事業所の行事、取り組みを報告し、情報提供や意見交換が行われ、そこでの意見をサービス向上に活かしている。議事録を作成、全職員にも見てもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	迷った時はすぐに行政に相談するようにしている。また、介護相談員派遣事業へ登録し10月から派遣が受けられるようになった。	伊勢市介護保険課担当者に、開設時から相談し協力関係を築けるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ会議の中で、身体拘束に関する勉強会を行い、職員の共有認識を図っている。	管理者・職員ともに言葉の拘束・身体拘束の弊害を理解し、日中は玄関や窓の鍵はかけないで、自由に入出入り出来る様に取り組んでいる。新人職員も多くなり、今後研修を頻繁に行っていく予定である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング、スタッフ会議等の中で、高齢者虐待について話し、不適切なケアをしないように確認しあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まだケースもなく、職員への説明も行われていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明書を丁寧に行っている。特に利用料金については別紙を用意し説明、納得いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には通院や面会等で来所された時など話しかけ、何でも言っていただけのような雰囲気作りに留意している。	家族の代表にも運営推進会議に参加してもらい、意見を出してもらっている。また家族が訪問し易い様な雰囲気づくりに留意している。毎日のように面会に来られる家族に常に問いかけ、何でも話してもらえる様な関係づくりに取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議を月1回行い職員の意見を聞いている。会議は各自の都合に合わせ日を設定することでパート等でも2～3ヶ月に1回は必ず参加できるように工夫している。	月1回(3時～4時)のスタッフ会議で、意見交換を行っている。9月10日に代表者と職員は相談室で面談を行っている。出された意見は皆で話し合い、管理者は運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格の有無で給与に差があるが、職員には資格取得の機会を設け、意欲向上できるように努めている。9月には代表者との個人面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を収集し、なるべく多くの職員が受講するように働きかけている。新人職員には初任者研修を受けてもらうなど、知識獲得に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	11月には四日市看護大学から講師に来てもらい研修会を開催する予定である。また、市の連絡会にも入会し、その中で行われる研修には積極的に参加し、職員の質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用について相談があった時は、必ず面談し、心身の状態を見、思いを聞き、本人に受け入れてもらえるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの生活、苦労等をゆっくり聞くようにしている。その中でニーズを知り、次の段階につなげていけるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人、家族の思い、状況を知り、話を聞く中で信頼関係を築き、必要なサービスにつなげるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者に人生の先輩として教わることが多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の訪問、電話の回数が増えることで、利用者もグループホームでの生活が落ち着いてきている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から行きつけの床屋、心の拠り所の道場、主治医の継続等、家族の協力により馴染みの関係が途切れないようにしている。	親族や友人が訪問しやすい雰囲気づくりに留意して、馴染みの人の関係継続の支援に努めている。調査日、面会に来られたご主人と娘から『此処は居心地が良いから毎日のように来ている！』と感謝の言葉があった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の食事の時間は職員も一緒に会話を楽しみながら摂る様にし、利用者同士仲良くなれるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療に移られた方1名あり。その後電話連絡にて様子確認している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前、必ず家を訪問し、家族、本人から聞き取り、意向、要望を聞くようにしている。	利用者と一緒に庭の草抜きや庭先のベンチに座りながら、利用者一人ひとりに寄り添い、地域の言葉で話しかけて、会話の中から希望や意向の把握に努めている。(センター方式の一部分も活用している。)	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時に本人、家族と話をする中で、生活歴を知り本人のことを理解できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを知り、心身状態では排便を特に気をつけ安定した精神状態で生活できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人には日ごろのかかわりの中で、家族には通院、面会時に、職員にはミーティングやスタッフ会議の中で意見や思いを聞いている。	利用者・家族・介護支援専門員が常に意見交換を行い、毎月モニタリングを行っている。医師・看護師の意見を聞き、現状に即した介護計画を作成している。基本見直しは3ヶ月毎、変化があれば随時行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の利用記録に食事、排泄、入浴等や日々の暮らしの様子を記入し、すべての職員が情報を共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に応じて、入所時の迎え、急な通院介助等柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域包括支援センター、区長、民生委員等の参加を得、地域で利用者が安心して暮らせるよう情報交換、協力関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には家族による通院としているが、不可能な時には、往診、又職員による通院介助にも応じている。	利用者・家族の希望により、かかりつけ医の受診支援を行っている。協力医の月1回の往診もある。専門医療機関受診も利用者・家族等の意向にそって、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の職員配置はない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期受診の際、1ヶ月の本人の様子、直近3日間のバイタル等情報を提供している。また、気になることがあれば医師に連絡するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まだケースもなく、職員への説明も行われていない。今後の課題である。	開設間もない事業所で、重度化やターミナルケアに向けた方針の共有と支援については今後の課題としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時の応急手当、AEDの使い方など研修を受けたものが皆に伝えるように実技で行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震時の避難方法については訓練をしたが、繰り返す必要があると感じている。消防訓練は11月20日に予定している。	9月3日に震災時の避難訓練をおこなっている。11月20日に伊勢市消防署の協力を得て、初期消火と避難経路の確認等を行う予定である。(非常災害時対応に関する研修記録簿を作成している。)	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「本人に恥ずかしい思いをさせない」ことをいつも頭において介護するようにスタッフと話している。	常に利用者の表情や態度に気を配り、言葉かけや対応に気をつけている。書類や面会簿等、個人情報保護に関するものは適切に取り扱っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誕生日には一番食べたいもののリクエストを聞いて作るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	目の悪い利用者があるが、本人の生活リズムで過ごすように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族が季節の変わり目には衣類等交換に来てくれている。美容院は地域から来てくれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞きながら買い物、調理し、職員も一緒にテーブルを囲んで楽しく食事できるような雰囲気作りを大切にしている。	職員も同じテーブルで、一緒に食事をしながら楽しい会話に花が咲き、和やかな食事風景である。地域の朝市で求めた季節の野菜・果物や伊勢漁港からの新鮮な魚を食材に使用して、食事が楽しみなものになるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量、水分量を把握している。食事を取れないときには本人が食べれそうなものを準備し、少しでも食べられるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日食前は口腔体操をしている。又、食後は一人ひとりに合わせて口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	男性利用者が立って排尿するとズボンを濡らしてしまうので、座ってできるように支援した等、一人ひとりサインを見逃さないようにし、個々にあった方法で支援している。	利用者一人ひとりの力や排泄パターンを把握して、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。夜間もトイレでの排泄を大切に考えて取り組んでいる。右麻痺の方、左麻痺の方が使いやすいトイレの整備にも努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の水分補給の時、手作りバナナジュースや牛乳を多用したり、腸の働きを良くするために散歩に積極的に誘うようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ほぼ1日おきの入浴になっているが、嫌がる時には翌日にしたり、清拭にするなど本人の気持ちに合わせて行っている。	シャワーの機械浴が整備された広い個浴は大きな窓もあり、明るく、ゆったりとした雰囲気のある浴室になっている。ローテーションを組み、不公平感が無いよう工夫して、入浴が楽しみになるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝食後から転寝される方もいるが、なるべく散歩に誘うなど活動を促すようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表を用いて、利用者が確実に服薬できるように工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を干したり、たたむこと、茶碗を拭く等でお願ひできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の花を見に行ったり、ドライブして公園などに行くようにしている。	利用者一人ひとりの希望を把握して支援している。日常的に自然豊かな事業所周辺を散歩したり、季節の花見や大仏山散策・公民館でのかんこ踊りを見学したりなど、楽しみ事も多い。またベンチに座っての交流が、外出しにくい利用者の憩いの場となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今のところ、お金を使う機会はないが、所持しないと落ち着かない利用者にはお金を持って来てもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入所したての不安な時期には、家族に協力してもらい、決まった時間に電話をしてもらったり、不穏になった時には声を聞かせてもらうなどしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然豊かな立地条件で窓から季節感を味わうことができる。また、利用者の様子を見ながら適度な明るさ、温度になるようにしている。	リハビリにも使用できる広い廊下のある、清潔で明るくゆったりとした共用スペースには、座り心地の良い椅子が置かれ、落ち着いて過ごせる安らぎの空間になるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを居眠りの場にしたたり、最近では座る場所も大体決まってきた。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく使い慣れた寝具や家具等持って来てと働きかけている。部屋には家族の写真を飾る等、本人が落ち着くよう工夫している。	自然豊かな樹々や野菜畑が見渡せ、緑色の優しい色調のカーテンが取り付けられた大きな窓がある居室の入り口には利用者本人が書いた表札が掲げられている。室内は清潔で、利用者が居心地良く過ごせる工夫が随所に見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分で名前を書いたり、目印をつけることで自分の部屋であることがわかるように工夫している。		